

# 三中だより

令和5年11月9日(木)

大田区立大森第三中学校

校長 笛木 啓介

令和5年度第7号

大田区中央4-12-8

10月21日(土)、秋晴れの空のもと、学芸発表会合唱コンクールが行われました。今回は、4年ぶりに全校生徒が一堂に会した形で実施できました。1年生は、これまでの練習で得た自信をもち、どのクラスも堂々と合唱を披露し、新鮮さを感じられる舞台となりました。2年生は、ここまでの2年間の中学校生活での成長を感じとることができるとも気持ちのこもった舞台発表でした。パートごとに力を出し合った合唱を作り上げていたのはさすがでした。そして、3年生は、中学校最後の合唱コンクールの舞台として、これまでに各クラスで切磋琢磨して仕上げてきた合唱を、気持ちもしっかり入れて披露してくれました。その迫力ある歌声は観客に感動を与え、中学校生活の集大成としてとても素晴らしい発表となりました。

合唱コンクールを終えた各クラスでは、行事の振り返りに取り組んでいます。合唱コンクールで感じたことなどを作文や鑑賞カードで振り返り、「どのパートもがんばっていた」「何度も練習した強弱が上手にできた」「今までで一番よい合唱だった」と自分たちの合唱を振り返り、「来年はもっと練習して声を揃えたい」や「今年の3年生のようにみんなを感動させたい」など、次の目標にむかって頑張る気持ちが、いくつもみられました。そして、「クラスがまとまることができた」と、これからの学校生活が楽しみな感想もみられます。大切なことは、自分が得たことは何かという成長の把握です。そして「ここを頑張ったから、自分はこの部分が伸びた。これは、今後のこうし

た場面で役に立つだろう」と考えられるには、自分自身をよくわかっておくことも必要です。

19世紀の哲学者のニーチェは、次のようになぞらえています。

**He who would learn to fly one day must first learn to stand and walk and run and climb and dance; one cannot fly into flying.**

(いつか空の飛び方を知りたいと思っている者は、まず立ちあがり、歩き、走り、登り、踊ることを学ばなければならない。一足飛びに、飛ぶことはできないのだ。)

「成長という過程を経てこそ、大きく飛躍できる」今回の合唱コンクールを通して、生徒たちに学んでほしいことが、このことばに表れています。生徒たちには、今回の合唱コンクールをはじめとする、さまざまな学校行事などをきっかけにして、自分がどう成長したのかを、しっかり振り返り、次のステップに向かって進んでほしいと思います。

さて、合唱コンクール当日は、多数の保護者・地域のみなさまにご参観いただき、生徒たちに励ましの声をいただくことができ、大変ありがとうございました。また、当日はPTAやおやじたちの集いの方々、学校運営協議会のみなさまには、受付や誘導など運営にご協力をいただき深く感謝申し上げます。今回の合唱コンクールの成果をもとに、今後も一層学校教育の充実に取り組んでまいります。

## スクールカウンセラー出勤予定日

|       |  |
|-------|--|
| 藤田 啓子 | 11/7(火)、11/14(火)、11/21(火)、11/28(火)         |
| 鳥海 真里 | 11/1(水)、11/8(水)、11/15(水)、11/22(水)、11/29(水) |
| 田中 典子 | 11/10(金)、11/13(月)、11/24(金)                 |



※大森三中相談室直通 電話(3773)7831

## 11月の行事予定

| 30 | 29                  | 28                  | 27      | 26                       | 25 | 24       | 23     | 22 | 21         | 20                      | 19 | 18 | 17                     | 16                     | 15          | 14 | 13        | 12 | 11    | 10                           | 9           | 8        | 7         | 6  | 5 | 4       | 3    | 2         | 1         |
|----|---------------------|---------------------|---------|--------------------------|----|----------|--------|----|------------|-------------------------|----|----|------------------------|------------------------|-------------|----|-----------|----|-------|------------------------------|-------------|----------|-----------|--|---|---------|------|-----------|-----------|
| 木  | 水                   | 火                   | 月       | 日                        | 土  | 金        | 木      | 水  | 火          | 月                       | 日  | 土  | 金                      | 木                      | 水           | 火  | 月         | 日  | 土     | 金                            | 木           | 水        | 火         | 月  | 日 | 土       | 金    | 木         | 水         |
|    | 英語検定申込<br>8:15～8:30 | 英語検定申込<br>8:15～8:30 | 後期生徒総会① | 東京都ヒューキングテスト③<br>於大田桜台高校 |    | がん教育講座②⑤ | 勤労感謝の日 |    | 復習確認テスト(3) | 第3回定期考査(理・社・保体)<br>給食あり |    |    | 第3回定期考査(国・技・美)<br>給食なし | 第3回定期考査(数・英・音)<br>給食なし | 避難訓練(不審者対応) |    | 全校朝礼 於体育館 |    | 土曜補習③ | 区連合音楽会3・4・5年前中 於アプリコ<br>安全指導 | 専門委員会15:30～ | 小中一貫教育の日 | 進路面談③⑤カット | 学校教育活動点検アンケート①<br>中央委員会16:00～<br>進路面談③⑤カット |   | 東京都教育の日 | 文化の日 | 進路面談③⑥カット | 進路面談③⑤カット |

## 私が合唱コンクールで学んだこと 1年

私達4組でつかみとった合唱コンの最優秀賞。私達のクラスは、毎日のように練習して合唱コンへ準備をしてきました。私は今回課題曲の指揮を務めました。最初は動きがぎこちなかったり、途中でリズムがくずれてしまったりと、ミスが多くとても不安でした。ブレスの位置は強く振る、サビの部分は強振して振ったりする、などを意識して指揮をできるように毎日練習を続けました。

自由曲の「My own Road」では歌詞を間違ってしまうことが多かったり、リズムより1テンポ早かったり苦労することが多かったです。

そして、あっという間に月日は過ぎて、合唱コン当日。当日はとても緊張しました。4組の合唱は最後までとても失敗しないかが心配でした。そしてついに4組の番になり、私は指揮台上に立ちました。私はあまりの緊張に記憶がありません。そして気づくと合唱は終わっていて、その後は2年生、3年生の合唱を聞き、吹奏楽部の演奏も聞きました。とてもきれいで、とても楽しくなるような曲ばかりで幸せな演奏でした。

そして迎えた結果発表、なんと4組は最優秀賞をとることができました。とても嬉しかったです。そして指揮をやってよかったなと思いました。合唱コンクールはとても嬉しかった最高の思い出になってとてもよかったです。

## 合唱コンクールを終えて 2年

私は合唱コンクールを終えて、賞をとれなかったことよりも、練習のときに良いアドバイスが言えなかったことへの悔しさが残っています。

私は課題曲の指揮者で、一番アドバイスをしなければならぬ存在なのに、これを言ったらみんなを傷つけるんじゃないかとか、私なんか言っても聞いてくれないんじゃないかなど色々考えてしまって、言いたいことが言えませんでした。その結果、他クラスよりも上手く課題曲を歌うことが出来ず、みんなの求めていた結果になりませんでした。私はそれがすごく申し訳なくて、後悔の気持ちが残ったまま合唱コンクールが終わってしまいました。それからあの時にこういえば良かった、もっと質のよい練習をすればよかったと、そうすればクラスみんなが喜びような結果になったんじゃないかと思い、私は合唱コンクールが終わったあともそのことを考えていました。ですが、そう思っても結果は結果であり、他クラスの方がよかっただけで、自分たちの合唱がよくないものではないと思います。2年の部が終わったあと、たくさんの人から3組の合唱良かったね。感動したね。と言ってもらったので、私は合唱コンクールを終えて、みんなを最優秀賞に導けなかった悔しさと、たくさんの人から絶賛の言葉をもらった嬉しさが残りました。来年また指揮者ができるのなら、今度はしっかりとアドバイスをし、最優秀賞をとれるよう頑張りたいです。

10月21日(土)の合唱コンクール、各クラスが素敵なハーモニーを響かせ、心に残る1日となりました。ご参観ありがとうございました。

## 「悔しさも」 3年

「最優秀賞は一、自由曲、ヒカリを歌った3年5組です。」

わあっ、と後ろの方で大きな歓声が上がった。腕を高く上げてガッツポーズをする人や隣の人と喜びを分かち合う人が、司会席の遠目からでもハッキリと私の目に映る。そんな様子を見て、ああやっぱりか、5組上手かったもんな。と思う反面、悔しさで涙が出そうになる。3年間の集大成は、特別な名前がつくことなく終わってしまったのだ。あふれそうになる涙を深く息を吸って、落ち着いて、引っ込ませる。それでも悔しい気持ちは消えることはなくて、私はただ俯くことしかできなかった。

私のクラスは、練習当初の熱量が人によってだいぶ差があった、と思う。放課後練習の時も真面目に取り組んでいる人もいれば、友達と雑談している人もいた。同じクラスなのに皆向いている方向も、その矢印の大きさも、バラバラだったと思う。それは特に合唱の時に大きく表れていることを指摘されていた。私自身、最後の実行委員として何かやらなくては、という思いはあったが、人のやる気を引き出すのは私にとって難しいことだった。

そんな状態が変化したのは、本番前一週間くらいからだった。アルトパートに男子2名が入ってくれて、徐々にアルトの声が出るようになり、全体で合わせるが増えていった。バラバラだったタイミングは本番が近づくにつれて合っていくようになった。そんな中で迎えた最後の学年リハーサルで、私はすごく不安を覚えた。他のクラスがもう仕上がっていた歌声だったからだ。私は焦った。あと2、3日で、このレベルまで達することができるだろうか、と。しかし、クラスの人達は違った。その日の放課後から全員で苦手だった自由曲を中心に練習を工夫した。歌うたびに上手くなっているのを感じて、とても楽しかった。

クラスとしての結果は、惜しくも実らなかった。自分にもっとできることがあったのではないかと思うと、最後の挨拶では、気を抜くと泣いてしまいそうだった。しかし、全校生徒が嬉しがったり、悔しがったり、やり切った様な晴れやかな顔をしているのを見て、私が実行委員長として目指していた、全員が全力で取り組む合唱コンクールになった、と思った。クラス、学年で一つの音楽を創り上げた合唱コンクールを、今年は全校生徒が体育館で一緒に感じる事ができたことが、委員長として嬉しく感じた。

